

# 【事例発表資料】多面的機能支払交付金の取組状況

## 1. 組織の概要及び取組事例

活動組織名	笠島ふる里集落資源保全隊				市町村名	名取市			
取組開始年度	19年度～	構成員	農業者	446名	団体	〈主な団体〉 笠島産業振興協同組合、改良区ほか			
			非農業者	229名					
			46団体						
認定農用地面積	田	139.18 ha	畑	7.21 ha	草地	0 ha	計	146.39 ha	
平成26年度 交付額	農地維持支払交付金				2,877千円				
	資源向上支払（共同活動）				1,867千円				
	資源向上支払（施設の長寿命化）				0千円				
① 地域の概要	<p>本地域は名取市西部の山間部に位置した純農村地帯ではあるが、近年の開発、特に他地区からの震災後移住により新興住宅地が拡大し、若い世代も多く、混住化が進んでいる地域である。</p>								
② 取組概要	<p>農地維持活動として、各施設の機能点検実施により側溝・排水路の土砂上げ、水路の適正管理、農道や溜池の草刈り、農道の砂利敷きなどを実施。</p> <p>資源向上活動としては施設の軽微な補修等に取り組んでいる。昨年は異常気象後の応急対策として、行政に頼らないで水路の浚渫や擁壁の設置などにも取り組んでいる。</p> <p>保全活動では、植栽活動やクリーンキャンペーン等を実施し、老人会やPTAなど幅広い世代間で連携を図りながら地域住民との交流を兼ね実施。</p>								
③ 取組の効果	<p>これまで実施したトウモロコシ祭りや生き物調査、花の植栽、クリーンキャンペーンなどにより混住化が進むこの地域でも、非農家との交流や子供たちに地域の自然環境の素晴らしさを発見してもらうと同時に地域の景観形成が図られている。</p> <p>顔を合わせる機会が多くなり共通の話題とコミュニケーション作りの場が増えた。</p>								
④ 課題	<p>庶務・会計担当の負担が大きく、役員の改選・後継者の育成が今後の急務である。</p> <p>高齢化により今後も同じレベルでの活動継続が可能かどうか心配である。</p> <p>現在遊休農地は未発生だが将来発生増加が懸念される為、発生防止対策が急務。</p>								
⑤ その他	<p>地域の財産である里山ときれいな水、農地の保全を今後も同レベルで推移できる体制づくりの構築のため、各構成団体との連携や後継者、担い手の育成を地域全体でバックアップしていく。また、活動を通して子供たちに地域の特性を認識してもらい、そして地域を守る取組み、魅力を感じてもらい、次の世代へつなげるよう取り組んでいきたい。</p> <p>震災前に実施していた生き物調査等を復活させ、子供たちに生きた教材として提供できればと考えている。</p> <p>また、地域資源の適切な保全管理を推進する為の検討会を開催し、地域の将来の問題課題について話し合いを実施、今後も定期的に行き具体的対策に繋げて行く。</p>								

## 2. 取組の写真

	
① 水路・側溝の土砂上げ	② 路肩・農道・ため池の草刈り
	
③ 農道適正管理、農道の砂利敷き	④ 景観形成、花の植栽活動
	
⑤ 施設のクリーンキャンペーン	⑥ 施設のクリーンキャンペーン